

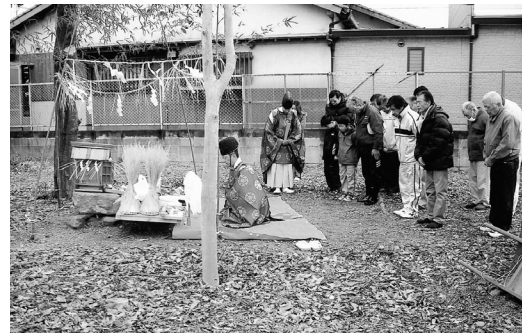
コースメモ	
85. 橋—32 炭焼橋	
86. 取水口—⑬ (堰) 古河へ	
87. 橋—33 安徳橋	
88. 橋—34 無名	
89. 橋—35 無名	
90. 取水口—⑭ (堰) (巻上げ)	
91. 取水口—⑮ (堰) (巻上げ)	
92. 橋—36 (工場へ)	
93. 取水口—⑯ (大イビ) (巻上げ)	
94. 取水口—⑰ (堰) (巻上げ)	
次号へ 炭焼地区周辺	

伝統の「火炊き籠り」の火天に舞い
五穀豊穡の感謝を祈る

節子

順番で未婚の男子が御輿をかついでいました。戦後は「庄屋木戸」と「今朝丸」が合併して「昭和木戸」となったため、5年に1度で当番が回ってきます。御神幸には宮司さんも同行され、「六一の森」で御祓いがあり、御神酒をいただきます。御神幸が終ると当番の家で直会が行われます。現人神社の近くには、天正14年、島津軍との戦いにより命を落とした「神官の墓」や「ナカモリの塚」があります。境内には「猿田彦大神」が2基あり、那珂川中学校近くの中光寺にも「猿田彦大神」が1基あります。また、那珂川中学校の前庭には、昭和45年に片縄の観音堂から移築された「権現塚古墳」の側壁があります。このほか仲地区には、昔から「百石地蔵」が祀られています。明治初期に書かれた『福岡県地理全誌』によると、『本村ノ内。袈裟丸。上木戸。中光寺。中城戸。枝郷炭焼二二所。スヘ

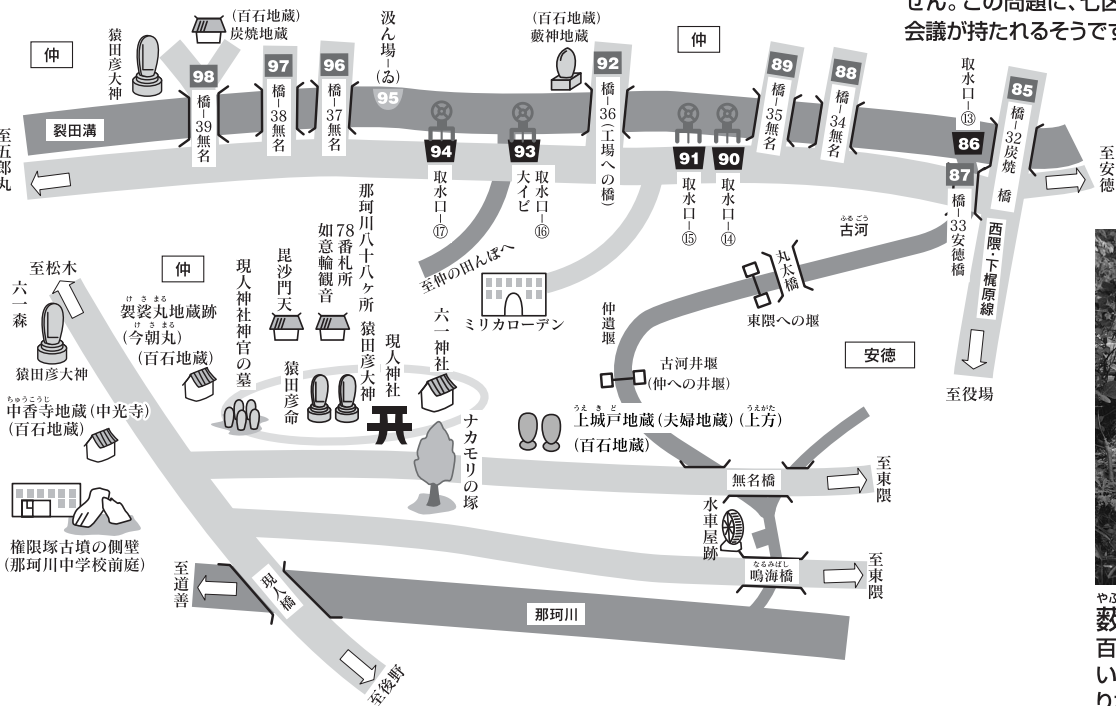
テ六所二地蔵アリ。見今。六地蔵一所。庄屋木戸ニアリ。此村ノ石高六百石餘ナリ。昔農民六家ニテ百石餘宛耕作シ。各年毎二地蔵會ヲ執行ヘリ。故ニ百石地蔵ト云。」と記されています。ここまで古河沿いを紹介しましたが、本流の『裂田溝』から仲へは、もう1本大きい取水口があります。安徳橋の先にある無名橋を2つ過ぎると取水口—⑭、取水口—⑮と続き、無名橋—36を渡ると『藪神地蔵』があります。工場の高い塀に遮られて近づけません。次に、『大イビ』と呼ばれる、仲区への取水口—⑯があります。『大イビ』は仲区が担当し、山田・安徳の堰守さん同様、灌漑期の水の確保には、大変なご苦労があります。この堰守さんたちは常に田んぼの声、水の声を聞きながら、次の区へと水を送っておられます。次号は、炭焼地区を紹介します。



ろくいちさま
六一様
12月6日、現人神社の境内から「六一神社」の御神体を乗せた神輿が宮司二人に先導されて、御神幸が行われました。



せきもり
五郎丸区と仲区の堰守さんです。この井堰の担当は仲区です。繁殖する「オオカナダモ」や、ゴミの投棄が多いため見回りはかせません。この問題に、七区の堰守さんが集まって対策会議が持たれるそうです。私たちも協力しましょう。



やぶ
藪地蔵
百石地蔵の一つといわれています。本当に藪の中でお参りが出来ません。

裂田溝は安徳大塚古墳の山裾を巡って、「西隈・下梶原線」に架かる「炭焼橋」の下をくぐり、炭焼地区へ流れて行きます。ここに裂田溝の支流である「古河」へ取水する転倒堰（取水口—⑬）があります。この「古河」の起点に架かる橋が「安徳橋」です。「古河」とは通称名で、正式名は「城谷川」と言い、上梶原を起点として安徳の針口で裂田溝と合流し「安徳橋」で再び分かれ、ここから約1.5km西へ流れて那珂川に合流します。また、「古河」を境に南は安徳・東隈、北は仲に分かれています。昔、この水路沿いは笹竹が茂り雑草におおわれていました。そのため、田植前の水路管理が大変だったそうです。昭和52年頃、那珂川ハイツ（王塚台

この東側に「現人神社」があります。現人神社は『底筒男命・中筒男命・表筒男命・神功皇后』をお祀りする古い神社と言われています。「日本書紀」や古書によると「神功皇后」が現人神社の「神田」に水を引くため山田に「一の井堰」を築き「裂田溝」を造った」とあります。また、境内には「六一神社」が祀られています。この神社は昔、仲の「六一の森」に祀られていましたが、天正年間の戦火で焼失し、その後ここに移されました。現在はこの跡地を「六一様」と言い、12月6日に現人神社から御神体を御輿に乗せて、このお旅所まで御神幸されます。戦前は「炭焼」・「上方」・「中木戸」・「庄屋木戸」・「今朝丸」・「中光寺」の各組が当番となり、年毎の



現人神社
「輪ごし（夏越祭）」は、蒼く鋭い茅の葉を束ね大きな輪にした「茅の輪」を鳥居に据え付け、輪をくぐり越えて心身の清浄を祈る神事です。当社の氏子には輪の芽を抜き取り、玄関口などに付け、魔よけの門札とする習慣が古くからあります。「おくんち」では、奉納相撲と流鏝馬の神事が行われます。流鏝馬は武者装束の射手が勇壮な姿で駆け抜け矢を射ます。打ち抜かれた的板は競って取り合われ、魔よけなど縁起物として持ち帰られます。



大イビ (取水口—⑯)
大イビからの取水は、途中何本かに分かれながら仲区の田んぼを巡ります。巻き上げ式の取水口は、細かく記された目盛りをもとに灌漑期の配水調整を堰守さんが判断し、下流域への配慮をしています。



てんとうせき
転倒堰 (取水口—⑬)
ここより分かれて安徳橋下をくぐり、「古河」へと流れ込み、現人橋上流で那珂川と合流します。



ふるこういせき
古河井堰
ここより取水された水は、現人神社の西側の田んぼを潤しています。

探訪 107

なかがわ

那珂川町郷土史研究会

裂田溝34

仲・現人神社周辺

団地」の造成に伴い、「古河」の基盤整備が行われ、現在の三面側溝に変わり管理が楽になったと古老は語っておられました。途中には「東隈への堰」があり、その下流に「現人神社」の西側の田んぼへ取水する「古河井堰」があります。そして、すぐ下流に架かる無名橋をくぐり、「鳴水橋」へと向い、那珂川へは「現人橋」のすぐ上で合流します。

ある古老は、昔、「鳴水橋」が出来る以前、この辺りに三角洲があった。東隈の男の子たちは、学校に遅刻しそうになると、三角洲に竹竿を立て、東隈から仲へ飛び越えていた。三角洲があった仲側には水路が引き込まれていて、「水車屋があった」と話されていました。

古河水系
東隈への堰 (丸太橋)
ふるこう 古河井堰 (仲への井堰)
無名橋
水車屋跡
なるみはし 鳴水橋
那珂川へ

史跡メモ
現人神社
六一森
天正14年(1586)の戦いで亡くなった神官の墓
猿田彦大神 (現人神社境内) 猿田彦命 (仲木戸より境内に移す)
ナカモリの塚
ひゃっこく 百石地蔵 (6基) ・藪地蔵 ・炭焼地蔵 ・袈裟丸地蔵跡 (今朝丸) ・上城戸 (上方) 夫婦地蔵 ・中香寺地蔵 (中光寺) ・中城戸 (中木戸)
猿田彦大神 (中光寺)
権現塚古墳の側壁 (那珂川中学校の前庭)
那珂川八十八ヶ所 78 番札所 如意輪観音
昆沙門天
仲遺跡